

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表
（令和5年度）

1. 認定の日付

令和4年9月2日

2. 認定事業適応事業者の名称

ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社
株式会社マルエツ
株式会社カスミ

3. 認定事業適応計画の実施期間

令和4年9月～令和9年2月

4. 認定事業適応計画の実施状況

（1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社、株式会社マルエツ、株式会社カスミは、顧客・販売データをグループ内で連携し、自動発注、電子棚札による機動的な価格変動、AIを活用した需要予測及び商品レコメンドを行う仕組みを構築し、既存の労働集約型のビジネスモデルを変革し、変化し続ける個人のニーズにタイムリーに対応することで、スーパーマーケット事業の生産性向上及び競争力強化を図りました。来年度以降、コストに関してはコスト外部上昇圧力がありますが、目標達成に向け継続的に取り組んでまいります。

（2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和5年度の実績（ROA）は下記のような実績となりました。

株式会社マルエツにおいて5.08%。当初見込（5.52%）を0.44%下回る実績。株式会社カスミにおいて0.55%。当初見込（7.12%）を6.57%下回る実績。

これは原価高騰や賃金上昇などの影響を受けたものであり、株式会社マルエツの方では若干目標を下回りました。株式会社カスミでは原価高騰や賃金上昇の他にカードによる販促活動に変更したものの、お客さまへの浸透に時間がかかり当初見込みより

大きく実績を下回りました。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、下記のようにになりました。

・有利子負債／CF

ユニテッド・スーパーマーケット・ホールディングスにおいて 8.3 倍

株式会社マルエツにおいて 2.7 倍

株式会社カスミにおいて 1.6 倍

・経常収支比率

ユニテッド・スーパーマーケット・ホールディングスにおいて 193.2%

株式会社マルエツにおいて 102.5%

株式会社カスミにおいて 99.7%

(4) 実施した事業適応計画の内容

令和 4 年度において、フルセルフレジの導入と電子棚札の導入及び自動発注関連へのシステム開発を行い、事業供用を開始しました。

株式会社マルエツにおいて人件費を売上高で除した「売上高人件費比率」は 15.02% となり、当初計画値 (14.43%) と比較して 0.59% 計画を下回りました。

株式会社カスミにおいて人件費を売上高で除した「売上高人件費比率」は 15.32% となり、当初計画値 (13.47%) と比較して 1.85% 計画を下回りました。

当初計画は下回っている影響は事業適応計画の効果よりも政府の政策による賃金上昇による影響が大きく、今後も同様の傾向が続くとみています。